

Stakeholder Engagement

全てのステークホルダーとのWin-Winの関係の構築に向けて

ますます複雑化する社会的課題や、高度化する技術的課題に対し、各ステークホルダーとの協働によって新たなソリューションやブレークスルーを生み出すことで、長期持続的な価値創造を実現していきます。

東京応化は、以下の全てのステークホルダーとのWin-Winの関係の構築を目指してまいります。

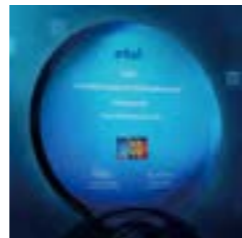
Our Stakeholders



今後も出現する見込みの「想定外リスク」や「新たな社会的課題」に対しても、国内外のステークホルダーとの綿密なコミュニケーションのもと、共有価値を創造しながら解決に貢献していきます。

お客様

- 共有価値
 - 高付加価値製品による感動（満足できる性能、コスト、品質）
 - 最先端分野での価値創造を継続できる信頼関係
 - 社会への安定供給を担保する生産体制
- 方針/基本的な取組み
 - 「tok中期計画2021」全社戦略
 - ①および②に注力（→P39ご参照）
 - 「TOK Vision 2030」の「ありたい姿」として、「顧客が感動する新しい付加価値を提供する」に注力
 - 顧客密着戦略（営業/開発/製造の三位一体体制）のさらなる深化と進化
 - 世界5地域での生産体制によるリスク分散
- コミュニケーションチャンネル
 - 日本・米国・韓国・台湾に設置した顧客密着拠点および顧客先でのFace to Faceミーティング（一部オンライン）
- 具体的事例/直近の成果等
 - 多くのお客様からサプライヤーアワードを受賞



Intel Corporation
「Preferred Quality Supplier Award」(2021年)

株主/投資家

- 共有価値
 - 長期持続的成長と企業価値向上
 - 資本効率の向上
 - 建設的な対話を通じたエンゲージメント強化
- 方針/基本的な取組み
 - 財務内容や事業活動状況等の情報を適時・公平に開示し、経営の透明性を高めて対話を実施
 - 取締役常務執行役員総務本部長がIR担当役員として管理・統括
 - 対話で寄せられたご意見・ご要望は記録を集約のうえ全役員に定期的に報告し、情報を周知・共有
 - ディスクロージャーポリシーに則り、統一した情報提供、公平かつ適時・適切な開示に努める
 - インサイダー情報の管理規程を定め、運用の徹底に努める
- コミュニケーションチャンネル
 - アナリスト・機関投資家向け決算説明会(2回*)
 - アナリスト・機関投資家との個別ミーティング(281回*)
 - 個人投資家向け説明会(4回*)
 - Webサイトに統合レポート、報告書(株主通信)、株主総会招集ご通知等を掲載
- 具体的事例/直近の成果等
 - アナリスト・機関投資家とのESGテーマを含む個別ミーティング(22回*)



オンライン開催による決算説明会
(2020年12月期)

従業員

- 共有価値
 - 経営理念の1つとしての「自由闊達」な企業風土
 - 一人ひとりの価値観に寄り添った人事制度/人材施策
 - より長期に働き続けられる環境整備（再雇用制度の拡充等）
- 方針/基本的な取組み
 - 「TOKグループ人材活用方針」の理念を各人材施策に反映
 - 「tok中期計画2021」全社戦略③に注力（→P39ご参照）
 - 「TOK Vision 2030」の「ありたい姿」として「皆が生き生きと誇りをもって働ける」に注力。また、同じビジョンの7つの経営戦略の1つとして「グローバル人材活用」に注力
- コミュニケーションチャンネル
 - 従業員エンゲージメント調査
 - 若手従業員と社長が「語り合う会」
 - グループ報を多言語で発行（日本語/英語/韓国語/中国語）
 - コンプライアンス上のリスクを早期に発見・改善、または未然に防止するための内部通報制度（通報実績：3回*）
- 具体的事例/直近の成果等
 - グローバルでの一体感の醸成に向けたコミュニケーション強化（グループ報および「TOK Vision 2030」社長ビデオメッセージの多言語発信等）
 - 役員全員を含む従業員を対象としたCSR教育を実施：参加人数185名*



グループ人材間の相互理解を促進するグループ報コンテンツ

*2020年12月期末実績

サプライヤー/ベンチャー企業

- 共有価値
 - 高い付加価値を生み出すための強固なパートナーシップ
 - 社会への安定供給を担保し、環境や人権にも配慮したサプライチェーン
 - コーポレートベンチャーリングによるオープンイノベーション
- 方針/基本的な取組み
 - 「TOKグループ化学物質管理基準」により、化学物質規制や顧客要求水準、当社グループの調達方針を共有
 - CSR方針に則った公平・公正・透明、かつ人権を尊重し、社会や地球環境に配慮した取引の実施
 - 「TOKグループ情報管理方針」に則ったサプライヤー情報管理
- コミュニケーションチャンネル
 - 定期監査を通じた製造体制の検査・確認（直接訪問およびWeb監査）
 - 新研究開発棟における共同研究/共同開発
- 具体的事例/直近の成果等
 - 新研究開発棟におけるオープンイノベーションの取組みをスタート



オープンイノベーション拠点として稼働を始めた新研究開発棟

学術関係者/研究機関

- 共有価値
 - 産学連携による技術的ブレークスルーへの取組み
 - 産学連携による基礎研究の充実と効率化
 - 国際研究機関との連携による開発スピードの向上
- 方針/基本的な取組み
 - 将来のブルーオーシャンや新たなコンセプトづくりにつながる技術シーズを蓄積
 - オープンイノベーションを通じて幅広い技術シーズを獲得し、市場の立ち上がりとともに自社リソースを本格投入
- コミュニケーションチャンネル
 - 国内外の大学や研究機関に当社人材を派遣
 - 共同研究開発
 - 東京応化科学技術振興財団を通じた研究開発助成活動
- 具体的事例/直近の成果等
 - 横浜市立大学と共同研究室を設立（2019年7月）
 - 東京応化科学技術振興財団を通じた2020年の助成活動：99件、4,045万円



次世代高純度化技術の確立を目的とした共同研究室を横浜市立大学と設立（2019年7月）

政府/自治体/地域コミュニティ

- 共有価値
 - 社会の持続的発展
 - 感染症リスクや気候変動リスク、地政学リスクなど、グローバルリスクへの対応
 - 今後出現する想定外リスクへの対応
- 方針/基本的な取組み
 - 「パーパス「社会の期待に化学で応える」
 - 「TOK Vision 2030」の「ありたい姿」である「世界のステークホルダーから信頼される」の実現に向けて政府/自治体、地域コミュニティと密に連携
 - 地域社会との協調・連携や信頼関係の構築を重視し、事業拠点周辺地域の社会貢献活動を積極的に推進
- コミュニケーションチャンネル
 - 環境規制、法令遵守にまつわる日本、米国、韓国、台湾の各国当局との折衝
 - 感染症リスクや気候変動リスクへの対応、脱炭素への取組みにおける各国の方針、目標等に則った活動
 - 社会への安定的な価値提供の根幹として、平時より地域コミュニケーションに注力
- 具体的事例/直近の成果等
 - 環境・安全についての対話：参加従業員数550名(2020年実績)
 - 地域社会との対話(2020年は新型コロナウイルスの影響を考慮し休止)
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた義援金を含む自治体・団体への寄付：1億1,269万円(2020年実績)



「かながわトラストみどり財団」が主催する「県民参加の森林づくり」に参加